

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2015 SGH通信

【1年生配布用】

No2 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

来週4月24日(金)に「SGH 課題研究1」のスタートとして、グローバル講演会が開かれます。

講師は名古屋大学大学院 国際開発研究科 副研究科長 梅村哲夫教授です。



◆名古屋大学大学院 国際開発研究科について知りましょう

Graduate School of International Development (GSID)とは？

●特徴

設立は1991年、今年度で25年を迎える比較的新しい大学院です。院生の半分は留学生で、政府機関、民間企業、あるいはNGOなどで社会経験を持つ院生が多く在籍します。教員の多くは国内外で開発援助機関の勤務経験があり、ODA¹などの開発プロジェクトにも参加しています。

●カリキュラム

【国際開発協カコース】

- ・「経済開発政策と開発マネジメント」経済開発に焦点を当て、雇用確保・所得増大など経済成長を通じ貧困削減に資する人材を育成します。経済学全般の基礎知識とともに、計量・実証分析、政策シミュレーションなどの数量分析能力も重視しています。インターンシップなどの実務経験を奨励しています。
- ・「農村・地域開発マネジメント」地域開発学を専攻する中で農村開発を中心課題として取り上げていきます。社会・経済開発、農村振興政策、都市との関係、参加型開発²についての基礎知識も学びます。現地調査を積極的に取り入れ、調査・統計の分析方法について学びます。
- ・「教育・人材開発」発展途上国と日本の開発コミュニティにおいて教育・人材開発研究や実務に携わる研究者・専門家を育成します。国際開発入門、社会調査法、国内外の実地研修の履修を重視します。
- ・「ガバナンス³と法」多様化する国際開発問題に対応するため、国際機関⁴、政府、NGOなどの諸機関の役割について理解を深め、いかに国内に法の支配を確立するかを学びます。
- ・「平和構築」：国際紛争や内戦はいかに発生し、いかに解決するのがよいのか、そして紛争解決の後は戦争で疲弊した国家をいかに再構築するかを学びます。
- ・「社会開発と文化」開発途上国の歴史、社会、文化、伝統、ジェンダー⁵、さらには地理・生態について理解し、コミュニティ開発、貧困削減、環境改善、生活向上などの開発プロジェクトについて考察する姿勢を身に着けます。日本の開発経験を生かした途上国開発を考えています。

【国際コミュニケーションコース】

- ・「人の移動と異文化理解」国際社会の問題を歴史的な経緯をふまえ、最先端の理論を援用しながら理

¹ ODA:政府開発援助。政府(日本など)または政府の実行機関(日本ではJICAなど)によって、発展途上国の開発に役立つ資金や技術を提供すること。1国の公的資金(税金)で運営されている。

² 参加型開発:途上国側の人々が主体となって開発を進めること。

³ ガバナンス:統治・管理。

⁴ 国際機関:国連や国際復興開発銀行(IBRD、世界銀行)など2国以上の公的資金で運営する機関。

⁵ ジェンダー:男女で同じように機会が与えられるはずが、結果的に格差が生まれてしまう。その理由を明らかにするのがジェンダーの視点。「公正な開発」に関わってくる重要な問題。

解し、異文化理解能力、国際コミュニケーション能力を習得し、国際社会で他者理解のメソッドをもった自己表現力豊かな人材を育てます。

・「言語教育と言語情報」電子化された大規模コーパス（言語資料）の分析、言語とその習得に関するさまざまな実験や観察、緻密な言語記述に基づく理論的・実証的言語研究の手法や、インターネットを用いたマルチメディア教材や外国語教育システムの開発など、応用言語学研究の手法の指導に力を入れています。

・中学校教諭および高等学校教諭の外国語（英語）の専修免許状も習得可能です。

※詳しく知りたい人は、名古屋大学大学院 国際開発研究科 「GSID パンフレット 2014-2015」（PDF ファイル、77 頁）の最新版が GSID のサイトからダウンロードできます。

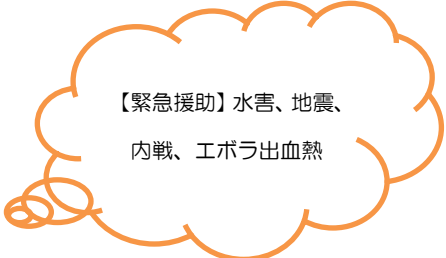
<http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/global/general/pamphlet.html>

◆北高 SGH では、「国際開発」に貢献できる人を育てたいと考えています。

「国際開発」を考えるにあたって、「国際貢献」というとどんな活動が思い浮かびますか？
状況に合わせて「緊急援助」と「開発援助」の二つに分けて考えてみます。

【緊急援助】・自然災害や戦争・内戦が起こった時にすぐ行う援助

- ・食べ物をあげたり、医療をしてあげたりする援助
- ・外国人が「主役」で、外国人が中心になってする援助
- ・命を救い、(肉体的・精神的)苦痛を減らすために行う援助

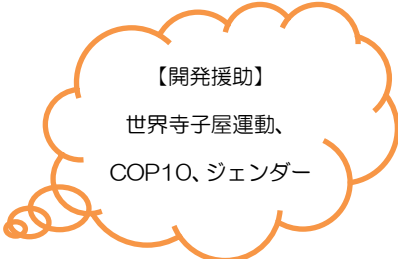


【緊急援助】水害、地震、
内戦、エボラ出血熱

ニュースや新聞でよく見かけるキーワードが思い浮かびますね。
では、「開発援助」はどうでしょうか？

【開発援助】・途上国政府や地方自治体が安定している時に行う援助

- ・現地の人々が自分で何とかするのを手伝える援助
- ・現地の人々が「主役」で、その地域の未来を考えて行動する援助
- ・未来にずっと続けていけるような「持続可能性」が必要



【開発援助】
世界寺子屋運動、
COP10、ジェンダー

少しイメージが湧きにくいかもしれません。

例として、今年12月に海外フィールドワークで出かけるカンボジアの教育に対する援助を挙げてみます。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 途上国（カンボジア）の希望：学校が不足しているので、学校を作りたい。② 先進国（日本）の援助：お金・物・人（技術）を援助する。
ただ学校を建設するだけでなく、その必要性和目標を考える、授業をするカンボジア人の先生を育てる、学校に通える生徒を増やすなど、その後の学校運営に役立つ知識も伝える。③ 途上国（カンボジア）の人々が自分たちで学校を運営していくのを見守る。 |
|---|

「緊急援助」も「開発援助」もどちらも大切な国際貢献ですが、皆さんが今後学ぶのは、途上国の人と一緒に将来を考えながら共により良い社会を作り上げていこうという「開発援助」の方です。